

苫小牧工業高等専門学校	創造工学科（都市・環境系都市・環境コース）	開講年度	令和02年度（2020年度）
-------------	-----------------------	------	----------------

学科到達目標

【学校目標】

A（教養）： 地球的視点で自然・環境を考え，歴史，文化，社会などについて広い視野を身につける．

B（倫理と責任）： 技術者としての倫理観や責任感を身につける．

C（コミュニケーション）： 日本語で記述，発表，討論するプレゼンテーション能力と国際的な場でコミュニケーションをとるための語学力の基礎能力を身につける．

D（工学基礎）： 数学，自然科学，情報技術および工学の基礎知識と応用力を身につける．

E（継続的学習）： 技術者としての自覚を持ち，自主的，継続的に学習できる能力を身につける．

F（専門の実践技術）： ものづくりに関係する工学分野のうち，得意とする専門領域を持ち，その技術を実践できる能力を身につける．

G（複合領域の実践技術）： 他の専門領域も理解し，自身の専門領域と複合して考察し，境界領域の問題解決に適用できる応用技術を身につける．

H（社会と時代が求める技術）： 社会や時代が要求する技術を工夫，開発，システム化できる創造力，デザイン能力，総合力を持った技術を身につける．

I（チームワーク）： 自身の専門領域の技術者とは勿論のこと，他領域の技術者ともチームを組み，計画的かつ円滑に仕事を遂行できる能力を身につける．

【実務経験のある教員による授業科目一覧】

学科		開講年次	共通・学 科	専門・一般	科目名																単位数	実務経験のある教員名					
創造工学科（都市・環境系）		本4年	学科	専門	環境工学Ⅰ																1	栗山昌樹					
創造工学科（都市・環境系）		本4年	学科	専門	都市計画																2	下タ村光弘					
創造工学科（都市・環境系）		本4年	学科	専門	コンクリート構造学Ⅰ																2	渡辺暁央					
創造工学科（都市・環境系）		本4年	学科	専門	フィールドワークⅠ																1	下タ村光弘					
創造工学科（都市・環境系）		本4年	共通	専門	医療・福祉																2	土居茂雄					
科目区 分	授業科目		科目番 号	単位種 別	単位数	学年別週当授業時数																担当教 員	履修上 の区分				
						1年				2年				3年				4年						5年			
						前		後		前		後		前		後		前		後				前		後	
						1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q			1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
専門	必修	フィールドワークⅠ	0001	履修単位	1																	渡辺 暁 央					
専門	必修	フィールドワークⅡ	0002	履修単位	1																	近藤 崇 鳥田 宏行					
専門	必修	建設マネジメント	0003	学修単位	2																	栗山 昌 樹					
専門	必修	卒業研究	0004	履修単位	8																	下タ村 光弘, 八田 茂実, 中村 努, 近藤 崇 鳥田 暁央, 松尾 優子, 谷口 陽子, 加藤 晃, 酒井 佑模 鳥田 宏行					

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	フィールドワーク I	
科目基礎情報							
科目番号	0001			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	創造工学科 (都市・環境系都市・環境コース)			対象学年	4		
開設期	通年			週時間数	1		
教科書/教材	金子研一：建設施工, 森北出版, 日本建設機械施工協会：ICTを活用した建設技術						
担当教員	渡辺 暁央						
到達目標							
1. 土工, 基礎工, 山留工の概要を理解する. 2. ICT測量技術を使用した実習ができる. 3. 従来型施工とICT施工の相違について理解する.							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目 1		土工・基礎工・山留工の概要を説明することができる.		土工・基礎工・山留工の各種工法の名称を答えることができる.		左記項目にすることができない.	
評価項目 2		ICT測量機器を使用して測量を行い, 結果の整理ができる.		ICT測量機器を使用した測量ができる.		左記項目にすることができない.	
評価項目 3		従来型施工とICT施工の違いを説明することができる.		ICT施工の概要を理解することができる.		左記項目にすることができない.	
学科の到達目標項目との関係							
I 人間性 1 I 人間性 II 実践性 2 II 実践性 III 国際性 3 III 国際性 CP2 各系の工学的専門基礎知識, および実験・実習および演習・実技を通してその知識を社会実装に応用・実践できる力 5 CP2 各系の工学的専門基礎知識, および実験・実習および演習・実技を通してその知識を社会実装に応用・実践できる力 CP4 他者を理解・尊重し, 協働できるコミュニケーション能力と人間力 7 CP4 他者を理解・尊重し, 協働できるコミュニケーション能力と人間力							
教育方法等							
概要		土工工事に必要な機械および工事の施工方法に関する基礎的な知識について講義する. ICT測量機材を使用した測量を行い, データの整理を行う. 従来型施工とICT施工との相違について講義する. この科目は企業で測量・施工管理を担当していた教員が, 従来施工と最新の施工について講義・実習形式で授業を行うものである. また, 出前授業では企業の技術者を招聘し, 最新のICT施工に関する講義・実習を実施する.					
授業の進め方・方法		前半は土工に関する基礎的な講義を実施する. 後半は特別時間割を編成して, ICT施工の基本となるICT測量機材を使用した実習およびICT施工に関わる出前授業を受講する. また, 関連する分野の専門書等を精読し授業の理解を促進するために, 45時間の自学自習時間を要する.					
注意点		前半の講義では, 演習を課すので必ず提出すること. 実習では高価な機材を扱うため, 私語等を慎み実習に集中すること.					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	土工 1		測量の成果に基づく土工の概要を理解することができる.		
		2週	土工 2		測量の成果に基づく土工の概要を理解することができる.		
		3週	地盤改良工		土工を行う前段階としての地盤改良工の概要を理解することができる.		
		4週	基礎工 1		構造物構築のために必要な基礎工の概要について理解することができる.		
		5週	基礎工 2		構造物構築のために必要な基礎工の概要について理解することができる.		
		6週	山留工		構造物を構築するために一時的に掘削する手法の概要について理解することができる.		
		7週	ICT施工実習		最新のICT施工の概要について理解することができる.		
		8週	ICT施工出前授業 1		最新のICT施工の概要について理解することができる.		
	2ndQ	9週	ICT施工出前授業 2		最新のICT施工の概要について理解することができる.		
		10週	ICT施工出前授業 3		最新のICT施工の概要について理解することができる.		
		11週	ICT施工出前授業 4		最新のICT施工の概要について理解することができる.		
		12週	写真測量実習		最新のICT施工の概要について理解することができる.		
		13週	GNSS測量実習		最新のICT施工の概要について理解することができる.		
		14週	3次元測量実習		最新のICT施工の概要について理解することができる.		

		15週	ICT施工実習	最新のICT施工の概要について理解することができる
		16週	達成度試験	
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
評価割合				
	達成度試験	実習	課題	合計
総合評価割合	30	40	30	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	30	40	30	100
分野横断的能力	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	フィールドワークⅡ	
科目基礎情報							
科目番号	0002			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	創造工学科（都市・環境系都市・環境コース）			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	なし／自作プリント						
担当教員	近藤 崇,鳥田 宏行						
到達目標							
・グループでフィールドワークの計画を立案し、計画に基づき、フィールドワークを実施できる。 ・グループで都市環境整備に必要な情報を収集・整理し、分析することができる。 ・グループで調査結果をまとめ、結果を報告することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	グループでフィールドワークの計画を立案し、計画に基づき、フィールドワークを正確かつ綿密に実施できる。			グループでフィールドワークの計画を立案し、計画に基づき、フィールドワークを実施できる。		グループでフィールドワークの計画を立案し、計画に基づき、フィールドワークを実施できない。	
評価項目2	グループで都市環境整備に必要な情報を十分に収集・整理し、分析することができる。			グループで都市環境整備に必要な情報を収集・整理し、分析することができる。		グループで都市環境整備に必要な情報を収集・整理し、分析することができない。	
評価項目3	グループで調査結果をまとめ、十分な検討を加えたうえで結果を報告することができる。			グループで調査結果をまとめ、結果を報告することができる。		グループで調査結果をまとめ、結果を報告することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
Ⅰ 人間性 1 Ⅰ 人間性 Ⅱ 実践性 2 Ⅱ 実践性 Ⅲ 国際性 3 Ⅲ 国際性 CP2 各系の工学的専門基盤知識，および実験・実習および演習・実技を通してその知識を社会実装に応用・実践できる力 5 CP2 各系の工学的専門基盤知識，および実験・実習および演習・実技を通してその知識を社会実装に応用・実践できる力 CP3 課題の本質を理解し，正しい倫理観の下で，自分の意見を論理的に表現できる力 6 CP3 課題の本質を理解し，正しい倫理観の下で，自分の意見を論理的に表現できる力 CP4 他者を理解・尊重し，協働できるコミュニケーション能力と人間力 7 CP4 他者を理解・尊重し，協働できるコミュニケーション能力と人間力 CP5 国際的素養を有し，継続的に自ら学ぶ力 8 CP5 国際的素養を有し，継続的に自ら学ぶ力							
教育方法等							
概要	都市環境の改善を行うのに必要なフィールドワークの基本技術を習得し、計画・調査・分析の一連の流れを理解して結果を合理的にまとめる力を育成する。						
授業の進め方・方法	グループワークを中心に、各々が能動的に情報収集や分析作業を進める。後半では、グループ内で得られた結果を考察し、報告発表資料を作成する。						
注意点	スケジュールの管理に留意しながら、授業外の時間も利用して課題に取り組むこと。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		授業内容や実施方法を理解する。		
		2週	都市環境に関するフィールドワーク1		グループでフィールドワークの計画を立案し、計画に基づき、必要な情報を収集・整理し、分析することができる。		
		3週	都市環境に関するフィールドワーク2		グループでフィールドワークの計画を立案し、計画に基づき、必要な情報を収集・整理し、分析することができる。		
		4週	都市環境に関するフィールドワーク3		グループでフィールドワークの計画を立案し、計画に基づき、必要な情報を収集・整理し、分析することができる。		
		5週	都市環境に関するフィールドワーク4		グループでフィールドワークの計画を立案し、計画に基づき、必要な情報を収集・整理し、分析することができる。		
		6週	都市環境に関するフィールドワーク5		グループでフィールドワークの計画を立案し、計画に基づき、必要な情報を収集・整理し、分析することができる。		
		7週	都市環境に関するフィールドワーク6		グループでフィールドワークの計画を立案し、計画に基づき、必要な情報を収集・整理し、分析することができる。		
		8週	都市環境に関するフィールドワーク7		グループでフィールドワークの計画を立案し、計画に基づき、必要な情報を収集・整理し、分析することができる。		
	2ndQ	9週	都市環境に関するフィールドワーク8		グループでフィールドワークの計画を立案し、計画に基づき、必要な情報を収集・整理し、分析することができる。		
		10週	都市環境に関するフィールドワーク9		グループでフィールドワークの計画を立案し、計画に基づき、必要な情報を収集・整理し、分析することができる。		

		11週	都市環境に関するフィールドワーク 10	グループでフィールドワークの計画を立案し、計画に基づき、必要な情報を収集・整理し、分析することができる。
		12週	都市環境に関するフィールドワーク 11	得られた結果を十分に検討し、最終発表の資料を作成する。
		13週	都市環境に関するフィールドワーク 12	得られた結果を十分に検討し、最終発表の資料を作成する。
		14週	都市環境に関するフィールドワーク 13	発表資料に基づき、プレゼンテーションを行い、議論を通して理解を深める。
		15週	都市環境に関するフィールドワーク 14	発表資料に基づき、プレゼンテーションを行い、議論を通して理解を深める。
		16週	なし	

評価割合		
	課題	合計
総合評価割合	100	100
基礎的能力	0	0
専門的能力	100	100
分野横断的能力	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	建設マネジメント
科目基礎情報						
科目番号	0003			科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	創造工学科（都市・環境系都市・環境コース）			対象学年	5	
開設期	後期			週時間数	2	
教科書/教材	「建設エンジニアの仕事術」金子研一（森北出版）/ISO9001:2000,Quality Management systems-Requirements,ISO					
担当教員	栗山 昌樹					
到達目標						
1．建設マネジメントの基礎的事項に関して理解し、説明できる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1		建設マネジメントに関する経済性管理、人的資源管理、情報管理、安全管理、社会環境管理の各事項について具体的に説明できる。		建設マネジメントに関する経済性管理、人的資源管理、情報管理、安全管理、社会環境管理の基本的な各事項について理解できる。		建設マネジメントに関する経済性管理、人的資源管理、情報管理、安全管理、社会環境管理の基本的な各事項について理解できていない。
学科の到達目標項目との関係						
Ⅰ 人間性 1 Ⅰ 人間性 Ⅱ 実践性 2 Ⅱ 実践性 Ⅲ 国際性 3 Ⅲ 国際性 CP2 各系の工学的専門基盤知識，および実験・実習および演習・実技を通してその知識を社会実装に応用・実践できる力 5 CP2 各系の工学的専門基盤知識，および実験・実習および演習・実技を通してその知識を社会実装に応用・実践できる力 CP3 課題の本質を理解し，正しい倫理観の下で，自分の意見を論理的に表現できる力 6 CP3 課題の本質を理解し，正しい倫理観の下で，自分の意見を論理的に表現できる力 CP4 他者を理解・尊重し，協働できるコミュニケーション能力と人間力 7 CP4 他者を理解・尊重し，協働できるコミュニケーション能力と人間力 CP5 国際的素養を有し，継続的に自ら学ぶ力 8 CP5 国際的素養を有し，継続的に自ら学ぶ力						
教育方法等						
概要	この科目は、民間企業で土木工事の計画、設計、施工管理等を担当していた教員が、その経験と資格を活かし、建設マネジメントの概要を講義形式で授業を行うものである。 プロジェクトマネジメントに必要な経済性管理、人的資源管理、情報管理、安全管理、社会環境管理に関する基礎的な知識や関係法規等の概要について学び、技術者として必要な素養を身につけることが到達レベルである。					
授業の進め方・方法	各単元ごとに課題を自学自習で取組むこと。提出された課題は、目標が達成されていることを確認するものである。 この科目は、学修単位科目のため、事前、事後学習としてレポートを含め自学自習時間は60時間以上必要である。					
注意点	① 4年前期で履修したフィールドワークⅠの施工管理学に関する内容を復習して授業に臨むこと。 ② 評価は達成度試験および定期試験 8 割、課題2割で評価する。 ③ 学業成績が60点未満のものに対して再試験を実施することがある。この場合、再試験の成績は定期試験の成績に置き換えて再評価を行う。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	1.建設マネジメントの概要	建設マネジメントが必要とされる背景、建設行政の概要について基礎的事項を説明できる。		
		2週	1.建設マネジメントの概要	工事の発注、入札、建設業法に関する基本的事項を説明できる。		
		3週	1.建設マネジメントの概要	設計と積算に関する基礎的事項を説明できる。		
		4週	2.経済性管理	施工計画・工事計画、品質管理に関する基礎的事項を説明できる。		
		5週	2.経済性管理	原価管理、設備管理に関する基礎的事項を説明できる。		
		6週	3.人的資源管理	人的資源管理の目的、人の行動モデルとインセンティブに関する基礎的事項を説明できる。		
		7週	3.人的資源管理	人的資源計画、人間関係管理の基礎的事項を説明できる。		
		8週	3.人的資源管理	人的資源計画、人間関係管理の基礎的事項を説明できる。		
	4thQ	9週	4.情報管理	組織における意思決定と情報、情報システム、ナレッジマネジメント、知的財産権に関する基礎的事項を説明できる。		
		10週	4.情報管理	緊急時の情報管理、ネットワーク社会の情報管理に関する基礎的事項を説明できる。		
		11週	5.安全管理	災害の要因、安全管理活動、リスク管理と危機管理、リスクの定義と表現、リスク対応方針とリスク特定に関する基礎的事項を説明できる。		
		12週	5.安全管理	リスクアセスメント、リスク評価、リスク対策、リスクの未然防止活動・技術、危機管理に関する基礎的事項について説明できる。		
		13週	6.社会環境管理	社会環境管理の目的、環境と社会システムに関する基礎的事項について説明できる。		
		14週	6.社会環境管理	環境関連法と制度の基礎的事項について説明できる。		

		15週	6.社会環境管理	社会環境管理に関する国際規格について基礎的事項を説明できる。	
		16週			
評価割合					
		定期試験	達成度試験	課題	合計
総合評価割合		35	35	30	100
基礎的能力		0	0	0	0
専門的能力		35	35	30	100
分野横断的能力		0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	卒業研究
科目基礎情報						
科目番号	0004		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 8		
開設学科	創造工学科（都市・環境系都市・環境コース）		対象学年	5		
開設期	通年		週時間数	8		
教科書/教材	各指導教員による文献、参考図書など					
担当教員	下夕村 光弘,八田 茂実,中村 努,近藤 崇,渡辺 暁央,松尾 優子,谷口 陽子,加藤 晃,酒井 佑模,鳥田 宏行					
到達目標						
1.工学実験技術について(適切な方法により実験や計測を行い、結果をまとめることができる。) 2.技術者倫理について(関連する法令を遵守し、技術者としての社会的責任を理解できる。) 3.情報リテラシーについて(セキュリティに配慮して情報技術を活用し、さまざまな問題に適用できる。) 4.汎用的技能について(相手の考えや意見を理解し、それに対する自己の意見を正しく伝えとともに、課題を発見し計画的・論理的に課題を解決できる。) 5.態度・志向性について(目標をもち自律・協調した行動ができる。) 6.総合的な学習経験と創造的思考力について(課題を理解し、課題解決のための要素やシステム・工程等を創出できる。)"						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
工学実験技術について	適切な方法により実験や計測を行い、結果を客観的に分かりやすくまとめることができる。		適切な方法により実験や計測を行い、結果をまとめることができる。		適切な方法により実験や計測を行うことができず、結果をまとめることができない。	
技術者倫理について	関連する法令を遵守し、技術者としての社会的責任を深く理解できる。		関連する法令を遵守し、技術者としての社会的責任を理解できる。		関連する法令を遵守せず、技術者としての社会的責任を理解できない。	
情報リテラシーについて	セキュリティに配慮して情報技術を活用し、さまざまな問題に適用できる。		セキュリティに配慮して情報技術を活用することができる。		セキュリティに配慮して情報技術を活用できない。	
汎用的技能について	相手の考えや意見を深く理解し、それに対する自己の意見を正しく分かりやすく伝えとともに、課題を発見し計画的・論理的に課題を解決できる。		相手の考えや意見を理解し、それに対する自己の意見を正しく伝えとともに、課題を発見し計画的・論理的に課題を解決できる。		相手の考えや意見を理解できず、それに対する自己の意見を正しく伝えられず、課題を発見し計画的・論理的に課題を解決できない。	
態度・志向性について	目標をもち続け、自律・協調した行動ができる。		目標をもち自律・協調した行動ができる。		目標をもち自律・協調した行動ができない。	
総合的な学習経験と創造的思考力について	課題を深く理解し、課題解決のための要素やシステム・工程等を複数案創出できる。		課題を理解し、課題解決のための要素やシステム・工程等を創出できる。		課題を理解できず、課題解決のための要素やシステム・工程等を創出できない。	
学科の到達目標項目との関係						
Ⅰ 人間性 1Ⅰ 人間性 Ⅱ 実践性 2Ⅱ 実践性 Ⅲ 国際性 3Ⅲ 国際性 CP2 各系の工学的専門基盤知識, および実験・実習および演習・実技を通してその知識を社会実装に応用・実践できる力 5 CP2 各系の工学的専門基盤知識, および実験・実習および演習・実技を通してその知識を社会実装に応用・実践できる力 CP3 課題の本質を理解し, 正しい倫理観の下で, 自分の意見を論理的に表現できる力 6 CP3 課題の本質を理解し, 正しい倫理観の下で, 自分の意見を論理的に表現できる力 CP4 他者を理解・尊重し, 協働できるコミュニケーション能力と人間力 7 CP4 他者を理解・尊重し, 協働できるコミュニケーション能力と人間力 CP5 国際的素養を有し, 継続的に自ら学ぶ力 8 CP5 国際的素養を有し, 継続的に自ら学ぶ力						
教育方法等						
概要	卒業研究は、これまで学んできた知識・技術を基に、専門分野における問題の発掘、測定量と計測方法、技術の開発・適用等、研究能力の基礎を育成することを目的とする科目である。					
授業の進め方・方法	各指導教員のもとで、自主的に研究を進める。全体としては、ガイダンス、中間発表会、発表会を行う。					
注意点	日常の研究以外にも、日常の研究のための調査・実験、データ整理、発表準備、論文作成の自学自習を必要とする。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	担任によるガイダンス		研究課題の問題点と目的を認識することができる。	
		2週	研究計画の策定		研究課題の問題点と目的を認識することができる。研究課題を解決するための方針を立案することができる。	
		3週	文献調査、ゼミ、実験		研究課題の問題点と目的を認識することができる。研究課題を解決するための方針を立案することができる。	
		4週	文献調査、ゼミ、実験		研究課題の問題点と目的を認識することができる。研究課題を解決するための方針を立案することができる。	
		5週	文献調査、ゼミ、実験		研究課題の問題点と目的を認識することができる。研究課題を解決するための方針を立案することができる。	
		6週	文献調査、ゼミ、実験		研究課題の問題点と目的を認識することができる。研究課題を解決するための方針を立案することができる。	

後期		7週	文献調査、ゼミ、実験	研究課題の問題点と目的を認識することができる。研究課題を解決するための方針を立案することができる。
		8週	文献調査、ゼミ、実験	研究課題の問題点と目的を認識することができる。研究課題を解決するための方針を立案することができる。
	2ndQ	9週	文献調査、ゼミ、実験	研究課題の問題点と目的を認識することができる。研究課題を解決するための方針を立案することができる。
		10週	文献調査、ゼミ、実験	研究課題の問題点と目的を認識することができる。研究課題を解決するための方針を立案することができる。
		11週	文献調査、ゼミ、実験	研究課題の問題点と目的を認識することができる。研究課題を解決するための方針を立案することができる。
		12週	文献調査、ゼミ、実験	研究課題の問題点と目的を認識することができる。研究課題を解決するための方針を立案することができる。
		13週	文献調査、ゼミ、実験	研究課題の問題点と目的を認識することができる。研究課題を解決するための方針を立案することができる。
		14週	文献調査、ゼミ、実験	研究課題の問題点と目的を認識することができる。研究課題を解決するための方針を立案することができる。
		15週	文献調査、ゼミ、実験	研究課題の問題点と目的を認識することができる。研究課題を解決するための方針を立案することができる。
		16週	文献調査、ゼミ、実験	研究課題の問題点と目的を認識することができる。研究課題を解決するための方針を立案することができる。
	3rdQ	1週	文献調査、ゼミ、実験	研究課題の問題点と目的を認識することができる。研究課題を解決するための方針を立案することができる。
		2週	文献調査、ゼミ、実験	研究課題の問題点と目的を認識することができる。研究課題を解決するための方針を立案することができる。
		3週	文献調査、ゼミ、実験	研究課題の問題点と目的を認識することができる。研究課題を解決するための方針を立案することができる。
		4週	文献調査、ゼミ、実験	研究課題の問題点と目的を認識することができる。研究課題を解決するための方針を立案することができる。
		5週	文献調査、ゼミ、実験	これまで学んできた数学や自然科学および工学を実践に移す能力と必要な知識を適用する能力を示すことができる。文献など適切な情報収集をすることができる。実験計画を立て、実験装置や測定装置を準備して実験を遂行することができる。収集したデータについて評価することができる。
		6週	文献調査、ゼミ、実験 中間発表会予稿作成	これまで学んできた数学や自然科学および工学を実践に移す能力と必要な知識を適用する能力を示すことができる。文献など適切な情報収集をすることができる。実験計画を立て、実験装置や測定装置を準備して実験を遂行することができる。収集したデータについて評価することができる。
		7週	中間発表会	研究の過程を論文にまとめることができる。研究内容をまとめてプレゼンテーションし、質疑に対して適切に回答することができる。
		8週	文献調査、ゼミ、実験	これまで学んできた数学や自然科学および工学を実践に移す能力と必要な知識を適用する能力を示すことができる。文献など適切な情報収集をすることができる。実験計画を立て、実験装置や測定装置を準備して実験を遂行することができる。収集したデータについて評価することができる。
	4thQ	9週	文献調査、ゼミ、実験	これまで学んできた数学や自然科学および工学を実践に移す能力と必要な知識を適用する能力を示すことができる。文献など適切な情報収集をすることができる。実験計画を立て、実験装置や測定装置を準備して実験を遂行することができる。収集したデータについて評価することができる。
		10週	文献調査、ゼミ、実験 論文作成	これまで学んできた数学や自然科学および工学を実践に移す能力と必要な知識を適用する能力を示すことができる。文献など適切な情報収集をすることができる。実験計画を立て、実験装置や測定装置を準備して実験を遂行することができる。収集したデータについて評価することができる。研究課程および結果を論文にまとめることができる。
		11週	文献調査、ゼミ、実験 論文作成	これまで学んできた数学や自然科学および工学を実践に移す能力と必要な知識を適用する能力を示すことができる。文献など適切な情報収集をすることができる。実験計画を立て、実験装置や測定装置を準備して実験を遂行することができる。収集したデータについて評価することができる。研究課程および結果を論文にまとめることができる。
		12週	論文作成	研究課程および結果を論文にまとめることができる。

		13週	論文作成	研究課程および結果を論文にまとめることができる。
		14週	卒業研究発表会予稿作成 卒業研究論文提出	研究課程および結果を論文にまとめることができる。
		15週	卒業研究発表会	研究内容をまとめてプレゼンテーションし、質疑に対して適切に回答することができる。
		16週		

評価割合							
	試験	発表	論文	取組み	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	30	30	20	0	20	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	30	30	20	0	20	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0